

IMJ NEWS LETTER

発行:一般社団法人 日本統合医療学会 本部 〒113-0023 東京都文京区向丘1-6-2 Email : info@imj.or.jp FAX : 03-3812-5167

“東日本大震災専門家会議に出席して”

一般社団法人日本統合医療学会
理事長 渥美 和彦

去る、5月14日（土）、仙台で開催された東日本大震災の支援活動に取り組む、IMJ災害ボランティアネットワーク専門家会議に出席し、東北の皆様の現場の悲惨な報告に胸を痛めると共に、医療・看護チームの活躍、漢方、ヨガ、鍼などを中心とした統合医療に携わる皆様の献身的な活動に感動を覚えました。

そして、皆様の要望に応え、日本統合医療学会が全力を挙げて支援活動に取り組むべき必要性を痛感しました。

私としては5月11日（水）に開催された「民主党厚生労働部門会議ヒヤリング」にも出席し、学会の為すべきことを下記のように考えています。

- 1) 仙台周辺の岩沼市あるいは東松島市に統合医療の拠点を設置し、そこで漢方、鍼、ヨガ、アロマセラピー、音楽療法などの専門家に、統合医療を展開する。更には必要に応じて被災地・者の訪問を行う。
- 2) 被災者が一時避難している、埼玉県加須市あるいは三郷市などに東北と同様の拠点を設置し、統合医療を展開する。
- 3) 仙台に地域センター、東京に中央センターを設置する。主に前者は地域で活動する団体と連携し、後者は政府、或いは関連する諸学会、協会、団体と連携する。
- 4) “個人の健康は個人で守る。”というセルフケア、セルフメディケーションの基本に則り、個人で実行可能なCAMの技術、方法（鍼、ヨガ、アロマセラピー、気功、体操、オゾン療法など）を早急に検討する。更にガイドブックを作成し、配布する。（※但し、導入時は各分野の専門家が指導する。）

- 5) 今後は被災地のみならず、被災者の疎開先などにおいて、長期に亘る“心のケア”が必要となることは必至であり、心身医学などの学術団体と提携し、統合医療として行うべき療法を展開する。
- 6) 今後、疾病予防、或いは保健のためにケアを必要とする人口が増加することが予測される。これに伴い、対応する医療資源の不足が予測され、その対策として“看護・介護、および統合医療”などの健康資源の掘り起こしと活用を政府に提言する。
- 7) 本年、6月5日（日）に東京大学で“被災時における統合医療”を検討する学術集会を開催する。
- 8) 政府に対して、拠点の整備、統合医療スタッフに対する活動補助金を要請する。

いよいよ統合医療の活躍が求められている時代が到来したと痛感しています。会員の一人ひとりが心をつなげて、被災地救済のために立ち上がりましょう。

以上